

授業方法について独自に工夫していること 【人文社会学系】

毎回の授業で課題を出し、コメントシートに記入してもらっている。記入してもらったコメントシートは、次の授業の冒頭に、良かったものや悪かったものを紹介している。また、コメントシートは、学生からの質問や疑問についても記入してもらっており、同様に、次の週の冒頭に回答するようにしている。

一斉講義で話す方法が中心ではあるが、途中で活動を入れるなど、応用的な学びを深める内容としている。

- ・教育方法(内容)についての教育政策の動向および学校での実践的動向について、最新の情報を提示する。
- ・教育方法に関する理論や概念規定を提示する。
- ・概念をもとにしながら、授業記録等を分析する。
- ・実践事例の分析に基づき、自らプランを作成する。
- ・以上の全ての学習プロセスにおいて、グループでの討議→全体への発表→個人の感想という展開を組み込む。

できる限り、現場に出たときに直面する状況を想定した内容にしています。また、一部の学生になってしまいますが、卒論で必要になる内容にもなっています。

一方的な講義ではなく、学生参加型の授業を心掛けている。現場での授業の実態を交えて、教師として必要な姿勢とはどのようなものかを伝えようとした。

模擬授業→相互評価の方法を軸としながら、全員が「教材をどう理解するのがいいのか」「それをどのような発問で考えさせるのがいいのか」「発言の広がりや受け止めたらいいのか」「能動的に取り組ませるにはどうしたらいいのか」など、常に課題をもって取り組めるよう心掛けた。

【M1国語科教育A(学籍番号 偶数)】【S2国語科研究A I(学籍番号奇数)】

- 授業開始時に2、3問、時事問題を出しています。
- 交流の時間を毎時間取り入れています。また、授業終了10分前に「授業の振り返り」をする時間を設けています。授業の中で気づいたことや、他の学生から受けたアドバイスを次回どのように生かしていくのかといったことなどを考えさせています。

「わかりやすく、かつ、実践的に」がモットー。朗読も細かく指導しているし、実際どう論理的に説明するかの見本も示しているつもり。今年から、リポジトリにある拙稿も活用しはじめた。

- ① 15回の授業の中で、「多文化共生」「地域の文化財」「これからの日本のエネルギー」の3つの教材開発をグループごと学生に行わせる。
 - ② グループの中で、授業の指導者を決め、全員の前で中学3年生を念頭に置いた模擬授業を行わせる。
 - ③ テーマに応じたゲストティーチャーをお招きし、教材研究の深まりをめざす。
- * ①、②、③を繰り返すことを通して、学習者の立場に立った授業の組み立てや、追究意欲を高める教材開発の在り方を学ぶ。
 - * 理論的な学びだけでなく、授業の方法論や生徒(学習者)理解の仕方等、実践的な面も重視している。
 - * グループによる討論をベースに模擬授業づくりを行うことで、学生の達成感を高めることができる。(AL)

①対象となる授業の目的と到達目標の明確化

- ・目的…学生に「社会的見方・考え方」のうち「社会的見方」の枠組みを作る。
- ・到達目標…小3「学校のまわりの様子」を構成する5つの要素を本学周辺地域の実態で習得し、それを元に、各々の学生の出身小学校区で探求し、レポートにまとめることができる。

②15回の構成

- ・各要素ごとに、例えば、本学周辺の地形を等高線作業と実地見学→学生の出身小学校区の等高線作業と観察といったように、習得→活用の往還を何度か展開する。

③学生を主体的に探求させるために

- ・名札を作り、発表の際に板書に付した。また、出欠確認に利用した。
- ・小さなホワイトボードを用いて、学生の考えを表出できるようにした。
- ・コメントシートは、当初、断片的な感想が述べられているものが多かったので、途中から、「この授業で気づいたこと、考えたことに表題を付けて、主語・述語を付けて書く」ように促した。
- ・学生のコメントシートには、教員のコメントを付けて次週に返却した。また、コメントの中の主な論点となるものをまとめて、「授業だより」として学生に配布した。

独自かどうかはよくわからないが、学生の考えを聞き、そこから発展できる内容で授業を構成するよう心掛けている。

2018年度本授業に関して3点の工夫を実施しました。

1. 基本を同じくしてらせん状にワークシートと対話を重視した活動:教育実習、採用試験、就活のある忙しい時期であるため、学びの方向を同じくし、スパイラルな授業展開を実施しました。前半は「読む技術」を振り返る形で進め、後半は2つのコースに合わせたワークシートを使った授業としました。
2. 4年生の進路に合わせたコースの設定:後半の授業では、小学校国語を担当する学生と中学・高校で数学を教える学生、一般職に進む学生の2コースの言語活動について考えていけるような課題設定を実施しました。
3. ラーニング・コモンズでの自学自習を基盤に、レポートの作成へ:新しく完成したラーニングコモンズを活用しました。2つのコースに分けて、本、論文、教科書を読みながらワークシートへの記入を行い、毎時間最後に対話しながら進める授業を行いました。

講義形式というより、グループごとに課題について話し合う時間を多く設けている。学生による相互評価も取り入れている。

- ・実際の教材を取り上げ、児童の立場になって学習を体験しながら、指導者としての観点を研究できるようにした。
- ・基本的なことは教授しながら、できる限りアクティブに学べるようグループ活動したり、児童役や教師役になって活動したりした。
- ・指導案作成も試みた。その際、1時間すべてを作成するのではなく、展開部分のみを作成するようワークシートを工夫した。

講義に際しては、受講生が主体的に自らの意見を発信すると共に、他の受講生と密に意見交流することができるよう、発表やグループワークの機会を(少なくとも各回平均45分以上は)設けました。とくに意見交流という点に関しては、クラス全体でのディスカッションを「哲学対話(P4C)」の手法を用いて実施した点が、本講義における工夫の一つとして挙げられます。また、必要な知識を伝達するためにやむを得ずこちらが講義するスタイルを採る際にも、「google form」というWebアンケートを利用して受講生に意見を記述させ、クラスで共有することにより、即時的かつ双方向的な学習になるよう心掛けました。

来たるべき新学習指導要領に実施に向けて、「主体的で対話的な深い学び」をキーワードに学生自身が、そのように体験的に学ぶ事ができるような実践的ワークを工夫した。

問1～6雨の回答 強く・ややそう思うが約80%であった。工夫が効果を上げたように思われる。

・独自かどうか分かりませんが、小学校の授業研究で実践されていることと同様に、提示した資料を読み取り、その内容について考えたり気が付いたりしたことを数人のグループで共有する時間を取った上でクラス全体に発表するよう促した。

・教科書の章を指定し、事前に読んでくるように指示した。それを前提として、授業が始まったら、7～10分程度の時間を取り、再度対象となる章を読み返して自分の考えをもつように促した。

・10回目以降の授業では、実際に小学校社会科で授業する場合を想定して、「学区たんけん」と「グループで指導案作り体験」に取り組んだ。

・15回目の授業では、小学校社会科におけるアクティブラーニングの具体的なあり方について全15回の授業のまとめとして講義・解説を行った。

◎3631121(3年生)と4631141(4年生)の共通

模擬授業は班別を実施しました。その際に班員全員で、学習指導案の作成や授業展開の方法について検討することを求めました。事前の班員同士の話し合いは、今後の教員としての力量を左右することを徹底させました。また、実際の教育現場にいた私の経験から、教育には、授業、校務、担任業務、部活動、地域社会とのかわりなど、様々な領域があるが、教科指導は根幹をなすものであり、教科指導で生徒の信頼を得ることが大切であること、そのためには、十分な教材研究が重要であり、模擬授業はそれを披露してもらう機会であることを承知して授業に臨むことを徹底させました。

学校探検として、準備、探検、まとめ、発表というプロセスを経た探究型の学習を構成した。学生たちは、意欲的に取り組み、発表も大変興味深いものであった。

小学校国語科の概要をつかむために、児童の立場に立って演習をしたり、具体的な教材研究の仕方を取り入れたりしている。また、国語科の特質を大切にして、学生一人一人が声に出して伝えることを意識したグループ学習を行っている。

講義形式とグループワークをバランスよく取り入れるようにしている。講義形式の授業では、配布プリントに考えたこと等を記入する箇所を設け、ただ受け身に聴くだけにならないよう配慮している。